

あいさつとは何か

～コミュニケーションツールとしての

あいさつと教育～

「おはようございます」「ありがとうございます」
「さようなら」というようなあいさつが交わされる
学校はとてもすがすがしく、気持ちがよいですね。
また、あいさつは学校だけに限らず、社会生活を送
る上でも大切なツールです。あいさつは大事です。

さて、ではなぜ大事なのでしょうか。あいさつは
人と人とをつなぐものだからだ、とよく言われます
が・・・。

学校では、あいさつを大切にし、“あいさつ運動”
と言って、児童生徒が自ら積極的にあいさつをして
いく活動が盛んに行われています。その成果もあっ
てか、本町では地域の方から、どの学校でも児童生
徒のあいさつがすばらしいとほめていただけるよう
になりました。とてもうれしいことです。

ところで、ここで一つ考えてほしいことがあります。
それは「あいさつ＝よいもの」だから、しまし
ようと言って運動を展開する。それはそれで価値が
あるのですが、ちょっと立ち止まって考えてみると、
それが“子どもたちが自ら考えて行動する”という
教育になっているかどうか、ということです。

というのも、あいさつはもともと強制されてする
ものではないので、「よいことだからしましょう」
と言うだけでは、あいさつの本質に迫っていないと
思うのです。

例えば、「私は人と対応するのが苦手だから、あ
いさつはしません」という考えの人がいた場合、ど
のように対応したらよいのでしょうか。大人でもよく
ある話です。「あいさつ運動だからみんなでしてく
ださい」と半ば強制しても、その場では仕方なくし

ても、そうでない場ではしないかもしれません。

そこで重要なのが、あいさつをする“意味”を考
えて、その上で実行していくということです。あい
さつのように日常的にするのが“あたりまえ”と思
われる所作については、理屈を抜きにして、「やり
ましょう」と言いがちですが、少なくとも学校教育
の中にあっては、あいさつも教育活動の一つとして、
学習する必要があると思うのです。教育活動である
以上、それは“学び”でなければなりません。私は
次のように考えています。

まず、あいさつとは何か、ということを理解する
ことが大事です。あいさつは、人間社会における重
要なコミュニケーションツールの一つです。社会生
活を送る以上、見知らぬ人とも関りを持たなければ
なりません。その時に、あいさつは大きな力を発揮
します。あいさつを交わすことで、まずはお互いの
心の垣根を低くすることができます。あいさつを交
わすことでお互いの心が和みます。

そのためには、苦手な人でもその意味を理解して
あいさつすることが大事です。それが“学び”です。
あいさつにより、相手との距離が縮まること、また
社会生活を送る上で、コミュニケーションを図るは
じめの一步だということを学ぶことが重要です。

そのことが理解されるようになると、児童生徒は、
自らあいさつするようになるでしょう。人に言われ
たからする、あいさつ運動だからするという消極的
な態度から、コミュニケーションにとって大切なも
のだからする、社会に出てから役立つからする、と
いう“学び”を得て成長していくと思われます。あ
いさつが苦手な人もがんばってするようになるでし
ょう。それを学ぶ場所が学校だと思うのです。

また、先生方も、なんとなくあいさつが大事だか
らするという認識から、学校で学ぶ重要な要素の一

つとしてあいさつを捉えていただき、児童生徒が自ら考え行動する、そんな態度を育てていただければたいへん嬉しく思います。そうすれば、先生方も、先生同士、先生と保護者、先生と地域の人と積極的にあいさつができるでしょうし、それを見て、児童生徒もますますあいさつをするようになるでしょう。そういう意味では、あいさつは教師もまた学ぶべきものだと思うのです。

あいさつは漢字で“挨拶”と書きます。“挨”には、“自分の心を開く”、“拶”には“相手の心に近づく”という意味があります。つまり、あいさつをすることは“自分の心を開き、相手を認め、相手の心に近づく”ということです。あいさつしたのに返事がないときに嫌な気分になるのは、相手に自分が認められていないと感じるからだそうです。

あいさつできない人には様々な理由があると言われています。人間関係が苦手だったり、社交的な場が好きではなかったり、過去に嫌な経験をしたりしたことで、あいさつを避けるようになってしまうこともあるようです。自己肯定感が低く、自分に自信がもてないことから、心の中に壁をつくってしまうこともあるようです。

だからこそ、学校では「あいさつしましょう」から「なぜあいさつが大切か考えましょう、そして自ら行動しましょう」という“学び”をしてほしいのです。学校だからこそ、そういった“学び”が身に付くと思うのです。

世界に飛び出していくこれからの若者は、たくさんの人たちと交流することになるでしょう。その人たちとコミュニケーションを取るときに、まず重要になるのがあいさつです。あいさつはコミュニケーションのスタートです。

先日の山梨日日新聞の“きょうの言葉”に次の文

言が載っていました。「話を聞いた人間が具体的な行為や行動を起こしてこそ、コミュニケーションです」と。コミュニケーションがこのようなものだとすると、あいさつを交わすという行為は、まさしくコミュニケーションのスタートです。あいさつそのものが具体的な行為や行動であるからです。

また、最近の朝のテレビ番組で放映されていたのですが、「おはよう」などのあいさつ表現は江戸時代からあったそうですが、それが習慣化したのは、明治時代に学校教育で行われてからだそうです。やはり、学校は大きな存在なんですね。

私の幼少時代の思い出ですが、親戚の家でご飯をごちそうになったときに、早く食べたいという一心で、「いただきます」を言わずに食べ始めたところ、親戚のおじさんにひどく叱られたことを思い出しました。やはり、あいさつは大事ですね。

あいさつは身近過ぎて、つい“学び”という視点を忘れがちですが、学校教育でしっかりと学ぶことがこれからの時代を生きていく子どもたちにとって、いえ、今を生きる私たちにとっても、極めて重要なことであると言えます。それは、人が社会で生きていく上で欠かすことのできないコミュニケーションツールだからです。それを学ぶのが学校だと思います。

(市川三郷町教育長 渡井 渡)

